

# 盗難警報機

Guardog・Pro Type R



## 取扱説明書

このたびは、ミツバ「ガードッグ・プロタイプR」をお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。この取扱説明書は、製品の正しい使い方や取付け方、使用上の注意について記載しております。取扱説明書を最後まで必ずお読み頂き、正しく製品を取付け、お使いください。また、取扱説明書が必要になった時、すぐに利用出来るように大切に保管してください。

### ミツバG-Systemについて



「ミツバG-System」とは、対応製品どうしを組合せることにより、プラスアルファの機能が実現できるように設計されたグレードアップ対応システム製品です。今後、「ミツバG-System」対応製品を随時発売する予定になっています。「ミツバG-System」対応製品を追加接続する場合、別売りの接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取扱いに関する詳細については、別途、G-System接続ハーネス取扱説明書をご覧ください。

## 1 安全に関する注意事項

記号と意味は次のようになっています。

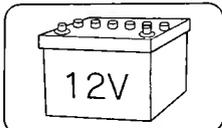
 <b>警告</b>	取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。
 <b>注意</b>	取扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、製品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

### 警告

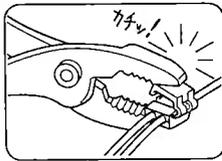
- 本製品をセットしたまま運転しないでください。重大な事故の原因になります。
- 本製品は大音量のため、耳のそばで動作させないでください。耳に障害が残るおそれがあります。
- 本製品は車内に人やペットを残したままでは絶対にセットしないでください。耳を痛めるおそれがあります。

### 注意

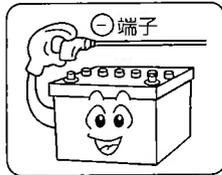
- 本製品は12V車にのみ取り付け可能です。24V車への取り付けはできません。



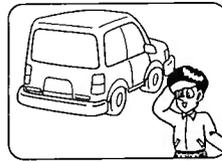
- 付属コネクタによる配線の際は付属コネクタのフタを確実にロックしてください。付属コネクタの金属部が車体の金属部などに接触すると、ショートして火災・故障の原因となります。



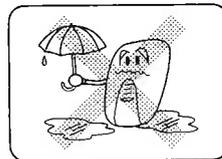
- 本製品の配線接続時は、バッテリーケーブルのマイナス端子を外してから作業してください。ケーブルを外さずに作業すると、配線がショートして火災・故障の原因となります。



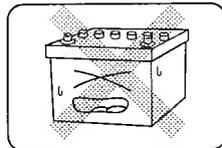
- テストをする際は周囲に人がいないことを確認してから行ってください。



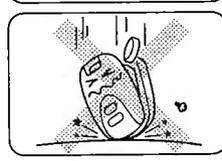
- 本製品に水がかからないようにしてください。特にリモコンは衣類のポケット等に入れたまま洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



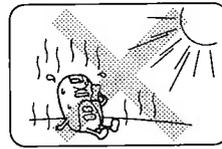
- 車のバッテリーが弱っている場合及び車本来の機能に不備がある場合は、正常に動作しないことがあります。



- リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないでください。故障の原因となります。



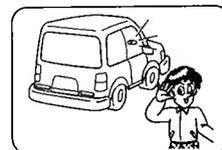
- リモコンは高温になる場所には放置しないでください。変形、変色や故障の原因となります。



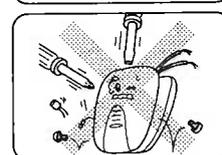
- 本製品のアラームは非常に大音量のため、テストの際は、絶対に長時間の試聴はしないでください。



- テストをする場合は、必ず車の外に出てから行ってください。



- 本製品の分解、塗装、改造は絶対行わないでください。火災・故障の原因となります。



## ⚠ 使用上の注意

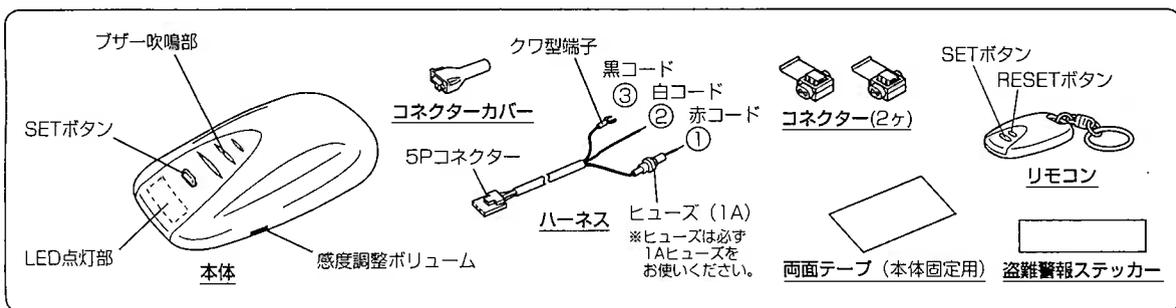
- 本製品は車両に対するいたずらや盗難に対して警告、警報を発するものであり盗難等を防止するものではありません。本製品を取付けたお車が万一盗難事故やいたずら等の被害に遭われましても、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。また、故障・誤動作により警報機が使用出来なかったことによる付随的保証につきましても同様に、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品は次のような場合は警報を発することがあります。
  1. 強風、豪雨、雷雨、台風等の気象条件の場合。
  2. 地震が起きた場合。
  3. 線路の付近、道路の付近、振動がある場所で使用した場合。
- ルームランプに残光コントロール機能のついているお車や、キーレス操作によりルームランプ等が点灯するお車の場合、ドア開閉による警報が出来ないことがあります。
- キーレス操作によりルームランプ点灯またはハザード点滅するお車の場合、キーレス操作にてドアロック開閉した時に警報を発することがあります。
- 本製品を動作させたまま長期間放置しないでください。バッテリー上がりの原因となります。
- 無線機や発電所またはテレビ塔等の近くでは、電波ノイズの影響によりリモコンの電波到達距離が短くなる場合があります。また、本製品の側で大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤動作や不動作の原因となる場合があります。

## 2 使用工具

- +ドライバー
- プライヤー、ペンチ等
- テスター
- その他

## 3 パッケージ内容

取り付け前にパッケージの内容を必ず確認してください。



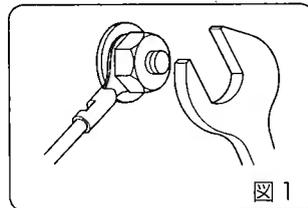
## 4 取り付け方法

### ⚠ 注意

- コネクタのフタは確実にロックするまでペンチ、プライヤーで圧着してください。コネクタの金属部が車体の金属部などに接触するとショートしてケガや車両火災の原因となります。
- テスターで電圧を確認する場合を除き、バッテリーケーブルのマイナス端子を外して作業を行ってください。外さずに作業をするとショートしてケガや車両火災の原因となります。
- 黒コードを塗装されている金属部分や、車の振動等でゆるんでしまう場所に取付けると本体が正常に動作しない事があります。
- 各コードの接続が不完全な場合、本体が正常に動作しない等の不具合が生じます。接触不良が起こらない様に確実に取り付けてください。

#### (1) 黒コードの接続

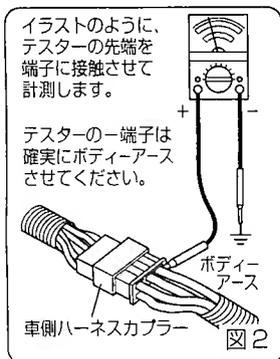
- 付属の専用ハーネスから出ている黒コードを車体の金属部分に確実に締め付けます。(図1) これにより間接的にバッテリーの(-)に接続されます。



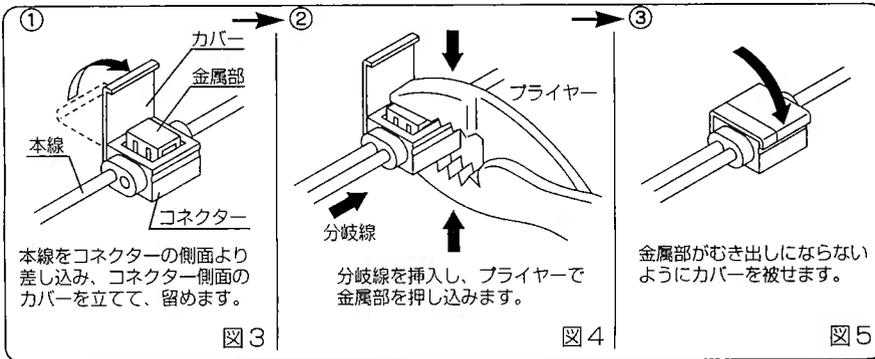
#### (2) 赤コードの接続

- エンジン・キーが「OFF」の状態でも常に電圧(約12[V])がかかるコードをテスターで探して下さい。(図2)
- 付属の専用ハーネスから出ている赤コードを上記のコードへ接続して下さい。接続は、付属コネクタを使って下さい。(図3~5)

#### テスターでの探し方



#### コネクタの接続方法



### (3) 白コードの接続

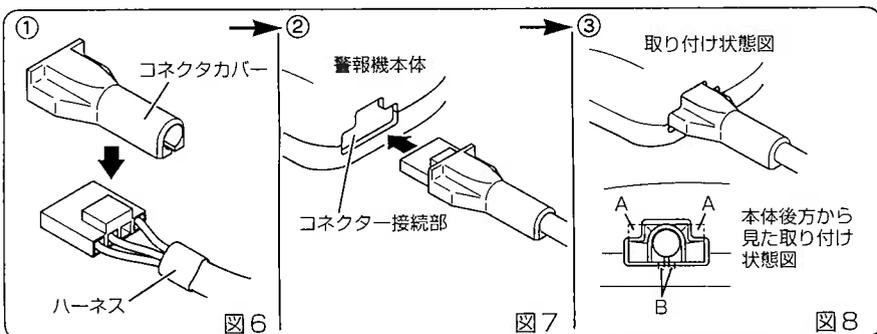
- 下記①または②のどちらかに該当するコードをテスターで探してください。(図2)
  - ① エンジン・キーが「OFF」の位置のとき0[V]で、「ON」の位置のとき電圧(約12[V])がかかるコード。
  - ② エンジン・キーが「OFF」の位置のとき0[V]で、「ACC」の位置のとき電圧(約12[V])がかかるコード。
- 付属の専用ハーネスから出ている白コードを上記の①または②のコードへ接続してください。接続は、付属コネクタを使ってください。(図3~5)

### (4) 本体とハーネスの接続

- ハーネス先端に図6、7のようにコネクタカバーを装着してください。
- 警報機本体の後部にあるコネクタ接続部に図8のようにハーネスを接続してください。

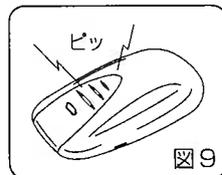
## ▲ 注意

- コネクタカバーのA、B部は抜け防止ストッパーになっていますので、本体のコネクタ接続部の内側へ入り込むようにしっかりと差し込んでください。  
うまく入らない時は、精密ドライバー等で押し込んでください。また、その際にはケガをしないように充分注意してください。



### (5) 本体の設置

- 本体をフロントのダッシュボード上等に設置します。  
カーペット・モケット等やわらかい部分には設置しないで下さい。設置する場所は、運転に差し支えない場所を選んで下さい。また、本体の固定は、取付け面の汚れや油分をよく落とし、付属の両面テープで確実に固定してください。
- 本体が設置出来たら、バッテリーのマイナス端子を接続します。このとき警報機本体から“ピッ”と確認音が鳴ります。(図9)



## ▲ 注意

- エアバッグ装着車は、エアバッグカバー部には本体を設置しないでください。  
エアバッグ作動時にケガをする恐れがあります。
- 本体がしっかりと固定されていないと振動が本体に伝わりにくくなるため、振動センサーが十分に感知しなくなるおそれがあります。
- ハーネスの取り回しは、ペダルやハンドルの動きに干渉しないようにしてください。また、ショートの原因となり大変危険ですので、カバー・内張り等でコードをかみ込まないよう充分ご注意ください。
- 本体は防水構造になっていないため、水がかからない場所に設置してください。
- 動作不良の原因になりますので、本体は無線機等、強い電波やノイズを発生する機器とは離れた場所に設置してください。
- エアコンの吹き出し口は高温になり、また結露の原因にもなりますので、この付近への設置もおやめください。

### (6) 動作確認

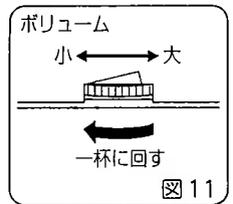
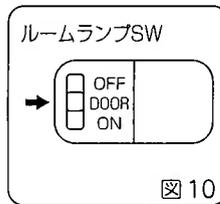
本体の取付け、配線が終了したら、動作確認をします。次の確認手順に従い本体を動作させながら、各動作状態において本体が正しく動作することを確認してください。

## ▲ 注意

- 動作確認をする際は、必ず車の外に出てから行って下さい。  
大音量ブザーにて警報するため、耳のそばで警報させると耳を痛めるおそれがあります。
- 動作確認をする際は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。

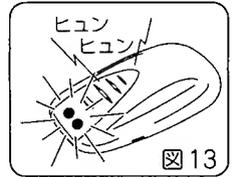
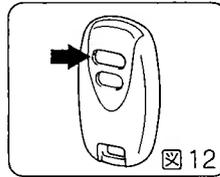
■ まずはじめに

- ① 車のエンジンは停止させた状態(エンジン・キーを「OFF」の位置)にして下さい。
- ② 車の全ての窓を開めた状態で行って下さい。
- ③ ルームランプスイッチは、ドア連動位置(ドアを開けると点灯し、閉めた時に消灯する)にして下さい。(図10)
- ④ 本体の感度調整ボリュームを最小にして下さい。(図11)

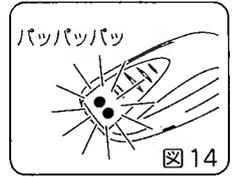


■ 電圧パルスセンサーの動作確認

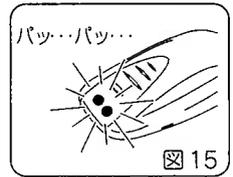
- ① 車を降りてドアを開けてから、リモコンのSETボタンを押して本体をセットします。(図12)  
このとき、セット確認表示として、警報機本体のLEDが約1秒間点灯し、同時にブザーが“ヒュンヒュン”と鳴ります。(図13)



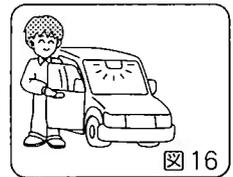
- ② 本体がセットされると、約5秒間のスタンバイモードに入ります。スタンバイモードの間、LEDは速い点滅(約0.5秒に1回点滅)をします。スタンバイモードのとき、センサーは振動やドア開(ルームランプ点灯)を感知しません。(図14)



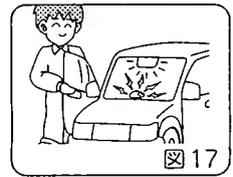
- ③ 約5秒間のスタンバイモードが過ぎると、自動的に監視モードに移行します。監視モードの間、LEDは遅い点滅(約5秒に1回点滅)をします。(図15)  
監視モードのとき、センサーが振動やドア開(ルームランプ点灯)を感知すると警報モードに入ります。



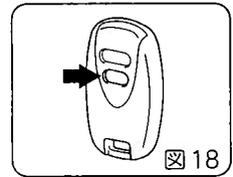
- ④ 本体が監視モードになったことを確認した上で、静かにドアを開けてルームランプを点灯させます。(図16)  
このとき、振動をなるべく発生させないようにして下さい。振動を与えようと、振動センサーにより威嚇警報モード(1秒)にて警報する場合があります。



- ⑤ ルームランプが点灯すると、その際に発生する電圧の変化を電圧パルスセンサーが感知して連続警報モードにて警報します。(図17)



- ⑥ ルームランプの点灯による電圧変化を電圧パルスセンサーが正常に感知することが確認出来たら、リモコンのRESETボタンを押して本体をリセットします。(図18)  
このとき、リセット確認表示として、LEDが約1秒間点灯し、同時にブザーが“ヒュン”と鳴ります。本体がリセットされると、LEDは消灯します。

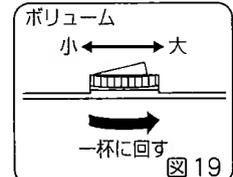


▲ 使用上の注意

- 電圧パルスセンサーはルームランプ等が点灯する際のわずかな電圧の変化を感知しますので、ドア(またはトランク)を開けてもルームランプ等が点灯しない場合は、警報モードに入りません。  
ルームランプスイッチは必ずドア連動位置にして下さい。
- 一部の車種ではドアの開閉信号を一旦車両のコンピューターに取込んでからルームランプを点灯させたり、残照灯などをコントロールしています。この場合には電圧の変化が非常に小さく、ドア(トランク)が開けられても警報モードに入りにくい場合があります。
- 60分以内に3回、電圧パルスセンサー感知により連続警報モードにて警報を発した場合、以後60分間は電圧パルスセンサー感知による警報は行いません。(誤動作軽減機能) この場合、一度本体をリセットすることで、誤動作軽減モードもリセットすることが出来ます。

■ 振動センサーの動作確認

- ⑦ 本体側面にある感度調整ボリュームを最大にします。(図19)
- ⑧ ①~③の手順に従って、本体を監視モードにします。
- ⑨ 本体が監視モードになったことを確認した上で、フロントガラス、ボンネット等を叩いて車に振動を与えます。このとき、本体に伝わる振動が軽い振動のときは威嚇警報モード、強い振動のときは連続警報モードにて警報します。



▲ 使用上の注意

- 動作確認の際に車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをすることのないようお気を付け下さい。また、車を傷つけないように行って下さい。
- 60分以内に3回、振動センサーが強い振動を感知し、連続警報モードにて警報を発した場合、以後60分間は振動センサーが強い振動を感知しても威嚇警報モードにて警報し、連続警報モードでは警報しません。(誤動作軽減機能) この場合、一度本体をリセットすることで、誤動作軽減モードもリセットすることが出来ます。

- ⑩ 必要に応じて、感度調整ボリュームを回して感度を調整します。  
 軽い振動を与えた場合でも連続警報モードにて警報してしまうときは、感度を下げてください。  
 \* 威嚇警報に関しては、感度調整は出来ません。

### ⚠ 使用上の注意

幹線道路沿いなど、交通量の多い場所では、走行車が起こす振動等を振動センサーが感知して警報してしまう場合が考えられます。連続警報が頻繁に起こってしまう場合は、感度を下げてください。

- ⑪ 振動センサーが正常に感知することを確認出来たら、リモコンのRESETボタンを押して本体をリセットします。

## 5 使用方法

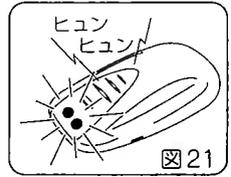
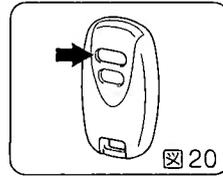
〈用語の意味〉

監視モード	振動やドア開（ルームランプ点灯）の監視を行っている状態。 このとき、LEDは遅い点滅をします。（約5秒に1回点滅）
スタンバイモード	本体をSETした後、監視モードに入るまでの状態 このとき、LEDは速い点滅をします。（約0.5秒に1回点滅） * エンジン停止中にセットした場合、セットしてから5秒後に監視モードに入ります。 ターボタイマー使用等により、エンジン作動中にセットした場合、エンジン停止してから5秒後に監視モードに入ります。

### 通常の使用法 ー ケース1

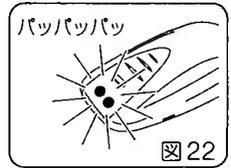
#### ■ セット方法

- ① 車から降りドアをロックした後、リモコンのSETボタンを押します。（図20）

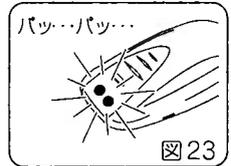


このとき、警報機本体のLEDが1秒間点灯し、ブザーが“ヒュンヒュン”と鳴り本体がセットされます。（図21）

- ② 本体がセットされると、5秒間のスタンバイモードに入ります。（図22）  
スタンバイモード中、センサーは振動やドア開を感知しません。



- ③ 5秒間のスタンバイモードが過ぎると、自動的に監視モードへ移行します。（図23）



監視モード中、振動及びドア開（ルームランプ点灯）を感知すると、次の警報モードにより、LEDとブザーで警報します。

- ・ 威嚇警報モード（軽い振動を感知した場合）

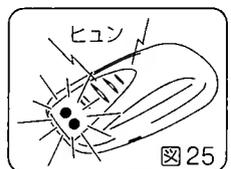
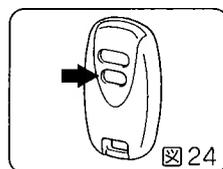
警報時間	LED表示	ブザー警報音
1秒	警報点滅	“ヒュン”

- ・ 連続警報モード（強い振動またはドア開を感知した場合）

警報時間	LED表示	ブザー警報音
26秒	警報点滅	“ヒュン”（1秒） ↓ ヒュヒュヒュ（25秒）

#### ■ リセット方法

- ④ リモコンのRESETボタンを押します。（図24）



このとき警報機本体のLEDが1秒間点灯し、ブザーが“ヒュン”と鳴り本体がリセットされます。（図25）

## ▲ 注 意

- 電池切れや紛失等により、リモコンからの操作が出来ない時は、警報機本体上面のSETボタンを押すことにより、セット操作を行うことができます。ただし、セット後、スタンバイモード(5秒)の後に監視モードとなる為、SETボタンを押してから5秒以内に車から降りてドアを閉め、ロックする必要があります。したがって、通常はリモコンにて操作するようにしてください。
- 同様に、リモコンが手元にない場合は、エンジンキーを「ON」または「ACC」の位置にすることでリセット操作を行うことができます。ただし、この場合はドアを開け車内へ入る必要がある為、連続警報モードにて警報されますのでその際に耳を傷めることのないよう充分ご注意ください。

### エンジンスターター併用時の使用方法…ケース2

- セット方法  
ケース1同様の操作により、セットします。
- リセット方法  
エンジンスターターでエンジンをかけます。  
LEDが1秒間点灯し、ブザーが“ヒュン”と鳴り、本体がリセットされます。  
\*エンジンスターターは、ミツバ製以外のものでも併用出来ます。

### ターボタイマー併用時の使用方法…ケース3

- セット方法
  - ① 車のエンジンを停止し、キーを抜きます。
  - ② ターボタイマー作動中に警報機をセットします。  
リモコンのSETボタンまたは警報機本体上面のSETボタンを押してセットしてください。  
このとき、本体のLEDが1秒間点灯し、ブザーが“ヒュンヒュン”と鳴り、本体はスタンバイモードに入ります。
  - ③ 監視モード移行前に車から降りてドアをロックします。  
ターボタイマー作動が終了し、エンジン停止してから5秒後、スタンバイモードから自動的に監視モードへ移行します。監視モード中、センサーが振動及びドア開(ルームランプ点灯)を感知すると警報します。
- リセット方法  
ケース1またはケース2と同様の操作によりリセットしてください。

## 6 主な動作仕様一覧 .....

### ■ 本体動作表示及び確認音

本体動作モード	LED表示	ブザー確認音	操作方法
本体停止時	消灯	無音	—————
セット時	点灯(1秒)	“ヒュンヒュン”	リモコンのSETボタンを押す。
スタンバイモード	速い点滅	無音	—————
監視モード	遅い点滅	無音	—————
リセット時	点灯(1秒)	“ヒュン”	リモコンのRESETボタンを押す。

### ■ 軽い振動を感知した場合

警報モード	警報時間	LED表示	ブザー警報音
威嚇警報	1秒	警報点滅	“ヒュン”

### ■ 強い振動またはドア開を感知した場合

警報モード	警報時間	LED表示	ブザー警報音
連続警報	26秒	警報点滅	“ヒュン”(1秒)→ヒュヒュヒュ(25秒)

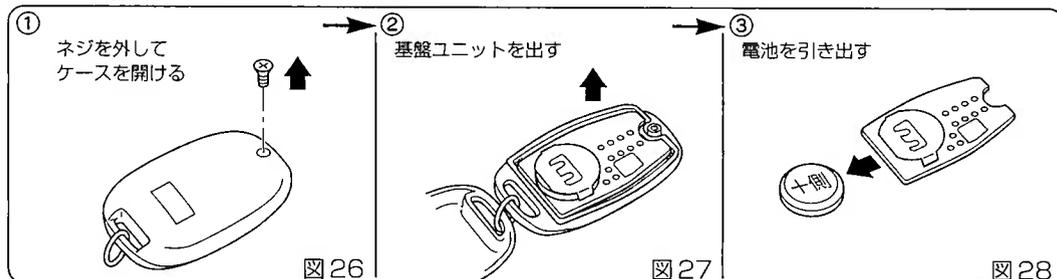
## 7 電池の交換方法

- リモコンの電波到達距離が短くなったと思われる場合は電池を交換してください。
- 電池はコイン形リチウム電池CR2016を1個使用します。

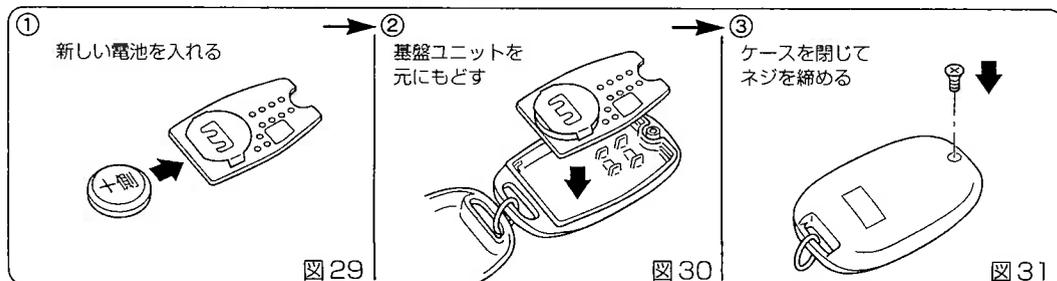
### 注意

- 本製品のリモコンにあらかじめセットされている電池はテスト用ですので電池寿命が短い場合があります。

(1) リモコン裏側のネジを外してケースを開け、電池を引き出します。



(2) 「+」 「-」 の向きに注意して電池を交換した後、元に戻します。



### 注意

- 電池の極性を誤ってセットすると、動作しないだけでなく、電池の寿命が短くなったり、リモコン本体が故障する恐れがあります。上図を参考に正しくセットしてください。

### 警告

- 交換した電池は、幼児の手の届かないところに置いて早めに処分してください。万一飲み込んだ場合には、すぐに医師に相談してください。

- リモコンを紛失したときは  
リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみ購入ができます。この場合、新しいリモコンのIDコードを警報機本体に登録する必要があります。

### 注意

- 警報機本体に登録できるリモコンは1台分のみとなりますので元のリモコンは使用出来なくなります。(スペアリモコンとしての設定はできません。)

キ リ ト リ 線

## 《保証規定》

保証の範囲や条件など詳しい内容について説明します。必ずお読みください。

お買い上げいただきました本製品は、当社の厳しい品質管理のもとで製造されたものです。

万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、この保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

- 修理は、お買い求めの販売店または、当社窓口にて保証書、不具合内容を提示の上、ご依頼ください。
- この保証書は保証期間が満了した時に効力を失うものとします。また保証期間内であっても製品が日本国外に持ち出された時にも効力を失うものとします。(This warranty is valid only in Japan.)
- この保証書は破損または紛失した場合でも再発行はいたしませんので大切に保管してください。

次に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象となりませんのでご注意ください。

- 製品を分解、改造した形跡が認められた場合。
- お客様の故意、または過失による事故と認められた場合。
- 地震、台風、水害などの天災ならびに火災、事故、その他紛争などによる損傷が認められた場合。
- 保証書の提示がないか、あるいは記載内容に不足がある場合。
- 取扱説明書に書かれている注意事項を守らなかったために発生した損害について。

## 8 故障とお考えになる前に .....

このような時	考えられる原因	処置
リモコンで操作出来ない	車のバッテリーが弱っている。	車のバッテリーを点検し、正常な状態にしてください。
	リモコンの電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	無線局、発電所などが近くにある。	車に近づいて操作してください。
勝手に警報する。	本体の固定が不十分。	付属の両面テープにて確実に固定してください。
	周囲の状況により、振動センサーが動作している。	次のような場合、誤動作することがありますのでご注意ください。 ① 強風時、豪雨、台風等の気象条件の場合。 ② 地震が起きた場合。 ③ 線路の付近、道路の付近、振動がある場所。
	電圧変化が起きている。(エンジン停止時に他の電装品が動作している)	車両の電圧変化の原因を取り除いて下さい。
	車のバッテリーが弱っている。	車のバッテリーを点検し、正常な状態にしてください。
	赤コードや黒コードの接触不良	しっかりと接続して下さい。
振動を与えてもまったく警報しない。	本体の設置位置が悪い。	振動が伝わりやすい所(かたい所)に設置してください。
強い振動を与えても連続警報しない。(威嚇警報はする。)	本体の設置位置が悪い。	振動が伝わりやすい所(かたい所)に設置して下さい。
	誤動作軽減モードに入っている。	本体を一度リセットした後、再セットしてください。(誤動作軽減モードがリセットされます。)
ドアを開けても連続警報しない。	ドアを開けた時ルームランプが点灯しない。	ルームランプスイッチをドア連動位置にして下さい。
	ルームランプが切れている。	電球を交換してください。
	誤動作軽減モードに入っている。	本体を一度リセットした後、再セットしてください。(誤動作軽減モードがリセットされます。)